

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人 リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 碧水 (A棟ユニット)		
所在地	雨竜郡北竜町字碧水15番地2		
自己評価作成日	令和5年10月3日	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のなかで、自宅にいた時のような生活をできるだけ送っていただけるように、趣味やこれまでのなじみのある生活を利用者様一人一人の生活の背景を読み取り送っていただいています。庭の手入れ、花いじり、カラオケ、パークゴルフなど個々での個別ケアを大切にしながら対応しています。また、まだまだ5類に移行したとはいえ、コロナ禍ではあります地域の方々との連携を図り近所にある寄り合い所を活用し、講演などを通して近隣の方々に利用者様、認知症の病気の理解を深めていただけるよう予定を組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0197400047-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の誰がみても理念はわかりやすいものにし、複数個所に掲示している。理念に基づき、毎日のケアの中で職員一人ひとりに共有していけるように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大の影響があり、近隣住民、地域の方々とのイベントは開催できていない状況ですが、日々の外気浴や散歩で、近隣の方々との交流はしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所にある地元の高齢者が集う地域支え合いセンターにて、当施設の事や、認知症の事についての講演を開催して、地域の方々に認知症の方への理解を得られるように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで、現在の施設の状況、サービスの実践の内容を報告し、相談や意見をいただき、今後の新しく行うサービスの意見や既存のサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地元北竜町の役場職員、地域包括センターの職員と入退所、ワクチン、事務関係、保険関係など、なにかあるたびに連絡、相談を行い協力をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束の研修を実施し、その都度身体拘束の3原則について話し合いを行い、身体拘束を行わないケアを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに虐待についての会議も行い、普段の何気ない声かけや言葉使いなど、スピーチロックの可能性についても話し合うなど言葉の虐待についても注意を払うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度制度を利用されている利用者の方は現在いないが、今後、利用されている利用者の方が入居される可能性も考え、制度の理解、すぐに対応ができるように定期的な研修等を考えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談、契約、改正の際は、電話や面談を重ね、その都度わからない事や不安なことなどをしっかりと解決してもらえるように図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口、苦情対応の体制があり、意見や要望があった際にすぐに対応できる体制をとっている。意見、要望があった際は、会議で話し合いをしっかりと行い、良い方向に向かっていくように対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り等でも職員の意見を聞き、月一度の運営会議にて、各ユニットの主任、事務員、看護師、施設長、理事長で話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議にて、勤務状況の話し合いを行い、現在の状況や今後の方針を考え働きがいのある職場になっていけるように話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のニーズにあつたさまざまな内容の職員研修を定期的に行い、実践を通してケアの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある施設での研修などで相互での関係づくりを行い、地域の同業者が集まるケア会議のなかで、地域の課題、地域ネットワークの拡充していけるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にも、入居を希望されるご本人と事前に面談や電話対応のなかで、しっかりと話し合いを行い、ご納得しご本人の要望に添えるように入居に向けて話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話対応のなかで、ご家族の要望や不安なことをしっかりと聞き取りを行い、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族とも要望をしっかりと組み取り、そに中で、身体、精神的な状況もふまえ、必要なサービスの提案も行い、話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、ご本人ともに四季折々をともに楽しみ、ご家族のように思っていたけような安心した関係づくりを意識し、関係を気づいていけるように心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対応がむずかしい場合や、相談事をご家族に連絡を密にとり一緒に考え、今後のケアとともに協力しながら考えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住まれていた場所や、なじみの環境に個別にいき、今までのなじみの関係を継続していけるようにできる限り支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や関係性などしっかりと把握し、職員が間に入りさりげなく介入し利用者同士が円滑に関わり合いのしやすい環境をつくり、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、要望があればご本人、ご家族の相談や支援できるような体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしいなじみの生活が出来るように、毎日のさりげない会話の中からも、意向や希望を組み取れるよう支援を行っている。またアセスメントの中でも、本人の思いを組み取れるように声かけに工夫したり対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談や毎日の暮らしの中で、これまでの暮らしの話や昔の生活の話聞き出せるようにさりげなく声かけを行い、安心した穏やかに生活を送れるように把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や心身の状況をケース記録に記入し、申し送りを行い、職員で情報の共有をし、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、毎日の生活の中でご本人の悩んでいる事や課題を考え、ご家族にも相談をいただきながら、会議を行い職員間で話し合いを行い、しっかりとその方にとって良い介護計画になっているか考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者一人ひとりの状況を介護記録に記入し、職員間で共有している。記録からも解決すべき課題などを見つけ計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に柔軟に対応できるように、市役所、地域住民、地域の介護事業所など常に連携を図り、施設の多様化、柔軟なサービスを行っていけるように協力体制を築いていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの状況をみながら近所にある地元の高齢者が集う地域支え合いセンターでの参加も考えていきたい。地元のイベントも積極的に参加し支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人には昔からの信頼のある主治医の医療が継続していけるように支援している。また、近隣の病院は医療連携関係にあり、緊急時であっても速やかに適切に医療を受けていける体制をとっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の急変時など判断に不安な時など介護職員は、看護職員に相談し連携を図り、処置や受診など速やかに適切な対応ができるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、関係医療機関、ご家族と情報交換や入院状況など聞き取り連携を図り、早期退院や状況、状態に応じて退院後にご本人にあった生活を継続していけるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合における指針の説明を行い、施設で出来る事を説明しています。医療機関、地域の包括支援センター、近隣の施設とも連携を図り、様々な場面でも対応できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の初期対応として、年に一度、救急救命の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアルを職員間で周知している。また、年に2回、消防職員の指導のもと火災、避難訓練を行い緊急時に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、尊厳を尊重し、声かけにも気を付ける意識を持つため、定期的に職員会議の中で、声かけ方法やスピーチロックなどの施設内研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思い、希望を大切にし、一日の中で飲み物の希望など些細な事でも、自己決定のできる環境作りをできるように心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昔ながらのその人らしい生活を送っていただくために、地域のパークゴルフ、カラオケ、以前住まれていた家に行くなど一人ひとりの個別ケアを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった方法で、その日に着たい好きな衣服を自己決定できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しめるように、その方の能力に合わせた方法で準備から一緒に料理や片付けなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の水分、食事量摂取を把握し、好みや持病などに配慮した食事、水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、利用者一人ひとりの状態、状況にあった口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの毎日の日中、夜間の排泄パターンと時間を把握し、その方にあった声かけや介助を行い、失敗を減らし、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日適度の運動や体操を行い、適切な水分摂取することで自然排便の促しをしている。また、医療機関とも連携を図り、定期的な排便ができるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度は入浴日を決めてはいるが、その方の体調や気分、要望に応じて希望に添えるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昔ながらの馴染みの生活習慣を大切に、一日の中で、自由にホールでも居室でも休息、お昼寝などできるように空間づくりも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬剤情報提供書を職員がいつでも把握、確認できるようにしている。また、誤薬がないように職員複数で確認して、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔ながらの趣味を継続して行えるようにパークゴルフ、カラオケなど個別ケアを行っている。また、自室を掃除機での掃除など日々の家事をすることで役割をもつ支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある際は、その都度希望に添えるように対応している。その際に必要に応じてご家族や地域の方々の協力をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば、大金でなければ自己管理していただいている。また、必要に応じて車でスーパーや呉服店などへの買い物や、普段は、近所のコンビニエンスストアなど買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や馴染みの人への手紙のやりとり、電話の希望があればその都度できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、落ち着いて過ごせるようにできる限り家具の配置を家庭的な環境になるように心がけています。また職員と共にレクなどで作成した季節感のある作品を共用空間に飾り、四季を感じられるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で食事がとれるように席を工夫したり、共用空間でも気軽に気の合う方同士で過ごせるソファや一人で過ごせるソファや電気マッサージ機を配置し、様々な状況に対応できる空間の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、できる限り今まで使用されていた馴染みの家具や使い慣れている物を使用していただき、できるだけ環境の変化の少ない安心できる居心地の良い空間になるように心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事や自力歩行、日常生活動作など、利用者一人一人のできること、わかることも把握し、自立した生活を送れるようにさりげなく見守りや一部介助を行い、残存機能を考慮して必要な時に必要なケアを行えるように工夫している		